



地区広報

おやまた

第4号

59. 3. 30



観衆も一体となつての地区運動会 (小山田小学校で)

むかしは自然の時代。

坂、山、森林、野、田、畑、川など「おやまた」は文字通り自然そのものであった。鳥鳴き、花咲く自然の住居であった。西にそびえる鈴鹿の山々も「おやまた」のうちのな

のだ、と子ども心に内心うれしく思ったものである。

いまは経済優先の時代。
老若男女ともに、地元よりも、むしろ、四日市の臨海工場群、盛り場商店街などに、密接に結びついているようである。生活上の利益が、近隣の共同生活に優先しているのである。

これからは精神の時代。

生活の便利さよりも、自然環境のよさを求める。子どもを育てるのは、大都市よりも地方で、というのが国民の大勢であるという。今後、地域開発が進むにつれ、人口も増え新しい町づくりが行われることであろう。

小山田は住民活動の時代。

「おやまた」は、そうした変化と人びとをも含んだ、理想的な町づくりが期待される。そのため、このよき自然環境、先祖伝来のすくれた文化財を、新しい町のポイントとした、住民活動が強く望まれる。

むかし
いま

これから

おもな内容

- ② 地区30年のあゆみ
- ③ 小山田村の一生
- ④ 釈迦如来の由来
- ⑤ 神明橋の渡橋式
- ⑥ 市長を囲む懇談会
- ⑦ 鼓笛隊10周年演奏
- ⑧ 盛大な地区文化祭

小山田地区30年のあゆみ

昭和29年3月31日村が合併 主な出来ごとと地区の変容

小山田地区は、昭和二十九年三月三十一日に、三重郡小山田村が四日市市に合併して、四日市市小山田地区となつてから、今年で三十周年を迎えました。その後、昭和三十二年四月十五日に三鈴村の一部（鹿間町、和無田町）が四日市市に合併し、小山田地区に編入され現在に至っております。

この時期に合併当時を思い出し、合併後三十年の主な出来ごとと、地区の変容などをふり返つてみたいと思います。

生い立ちと

当時の様子

小山田村の生い立ちと市合併当時の様子は、当時の村会議員で合併直後の地区連合自治会長であった田中弘治郎氏の「小山田村の一生」を参考にさせていただきたい。

現在、小山田地区は四日市市全体から見ると、面積では九・九％、人口では二・一％であるが、合併当時は、面積は二一・二％、人口は三・〇％であった。

道路は砂利道

三十年前には地区内の道路の殆どが砂利道であったが、現在では主要道路、集落内の



小山町地内新県道

整備は特に進んだが、集落内の道路は狭く、未改良未整備箇所も多く、特に通学路の整備が遅れている。

面影のない当時の小中学校

合併当時の小山田村と久間田村の組合立三鈴中学は昭和五十一年に廃校になり、現在は小山田、水沢両地区を校区とした西陵中学として移転新築され、小山田小学校も増築されて三十年前の面影は小さくなっている。

支所出張所からセンターに

当時の村役場は、小山田支所、小山田出張所と名称が変り、現在はその場所が移転して小山田地区市民センターとなり消防分遣所も同居し、広い駐車場、ゲートボール場、テニスコートなども併設され周囲に桜を植樹し、地域社会づくりの拠点となっている。

幸福村や小山田病院

昭和五十年には堂ヶ山、美里町地内に昭和幸福村公園が

開園し、行楽シーズンにはにぎわいをみせ、山田町地内には小山田病院と老人ホーム群が建設され、各所に子供広場、ゲートボール場が設置され、さらに小山田地内には南部埋立処分場が建設され、三重県環境保全事業団による産業廃棄物処分場も工事が進められている。

伊勢湾台風で農地を流失

三十年の間には、伊勢湾台風、集中豪雨などによる河川の決壊、農地の流失など大きな被害を受けたが、河川の改修も進められた。

ほ場整備と共に機械化

水田のほ場整備は、六名町



地区市民センター

農村公園などの建設

現在、小山田地区では農村総合整備モデル事業、新農業構造改善事業、ほ場整備事業、三重用水事業等が推進されており、農村公園の建設、集落センター（公会所）の改築、集落排水路の整備、未整備水田のほ場整備、ライオスセンターの建設などが計画されている。

発展が待たれる小山田地区

また、ミルク道路沿線の大規模開発は市の内陸部開発計画のなかで検討が進められており、近い将来地元関係者との協議が行われる予定である。これら計画中の事業が実施されると、小山田地区もさらに変容し発展することと思われる。

台所改善で生活様式も変わる

しかしながら、経済成長により兼業農家が増加し、核家族化も進み、住宅、台所の改善改善、マイカーの増加などにより生活様式は都市化されつつあり、古くからの農村としての慣習は失われてきつつある。また、農家の労働力不足による農地の耕作放棄で荒地が増加し、松くい虫により山林の松が枯れ、自然景観、生活環境は大きく変化している。

堂ヶ山町、鹿間町、和無田町などで施行され、農業の機械化も進んでいる。

他の地区では住宅団地、工

改修された北川橋附近
(山田町で)



道路網の整備

道路については、フラワー

三重郡小山田村の誕生

私共の生れ育った小山田村は明治四年七月の廃藩置県の制度が実施された当時、菰野、山田村、小山田村、西山村、内山村、亀山堂菰山村、度会郡六名村となっていました。明治二十二年四月、町村制

実施にともない、これらの村が合併して三重郡小山田村が誕生しました。各村は大字区になり、各区には区長職をおき、村長は村会議員の互選により選出され、村会議員と役場職員は各字区より一名宛選出するとの内規を作り、各区長職は各区において選出し村長の任命辞令にて就任しました。

不況で村農協倒産
世の中の発展により円滑な村行政が行われ、明治大正を経て昭和へと時代と共に小山田村も栄えていきました。昭和の二十年代になってから

予算額は九百六十六万三千五百円(当時役場職員の月給は平均一万二千円)が計上されました。



小山田村合併を知らせる当時の四日市広報

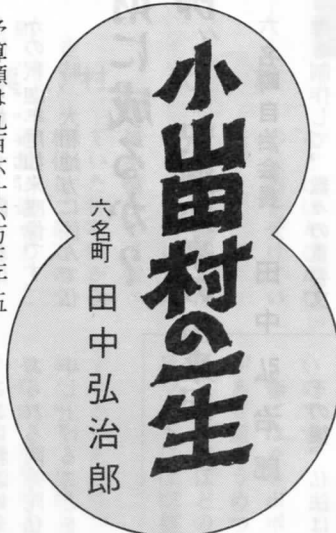
ら終戦後の混乱と打ち続く農村の不況等により、村農協の倒産による村民預貯金の封鎖と村長選後の後遺症もあつて、村税の滞納額が増加するばかりとなりました。



戦後初の合併で小山田村役場は小山田支所に

四日市市に合併

昭和二十八年年度の小山田村



私共の生れ育った三重郡小山田村の一生について振り返ってみたいと思います。

たが、村税の滞納額が多くなつてくれば、村行政にも影響が出始め、このままでは将来行き詰まりとなり、この際何とかしなくてはと、村会議員の間

六十五年間の歴史を閉じる
村界の変更、字界町名の決定その他の事務処理が終り、昭和二十九年三月三十一日限りで小山田村を廃止し、同日に四日市市に合併するとの議会の可決を得て知事に申請、認可され、六十五年にわたる小山田村の歴史を閉じ、三百余万円の滞納赤字も四日市市に引き継がれました。

六名町 田中弘治郎

で鳩首会議が続きました。昭和二十八年に町村合併促進法が公布され、行き詰まった村政打開には小山田村が合併して大きくなる事が必要であり、しかも「寄らば大樹の陰」という諺を信じて、大四日市に合併するのが最善の策であるとの結論になり、内々に四日市市にその内意を打診した結果、話し合いをしましよとの返事がありません。

隣村同一歩調合併ならず

どうせ合併するのなら小山田村単独よりも近隣の村が合同して合併しようと、隣村へ小山田村の誠意を伝え、同一歩調を訴えましたが、隣村にはそれぞれの事情で同意が得られず、村単独合併となりました。

六十五年間の歴史を閉じる

村界の変更、字界町名の決定その他の事務処理が終り、昭和二十九年三月三十一日限りで小山田村を廃止し、同日に四日市市に合併するとの議会の可決を得て知事に申請、認可され、六十五年にわたる小山田村の歴史を閉じ、三百余万円の滞納赤字も四日市市に引き継がれました。

村役場から小山田支所に

小山田村役場は、四日市市役所小山田支所となり、初代支所長に村長だった矢田佐太郎氏が任命され、村吏員は市



最後の合併、鹿間町ではにぎやかな祝賀行事も...

吏員に、各種委員会は解散。各字は町となり、各字区長は市より町自治会長の辞令を受けました。地区連合自治会も組織されました。最後に、小山田地区の将来の地域開発に大きな夢と、希望を持って筆をおきます。

報恩感謝の気持 苦しみに耐える心を

内山町 矢田俊哲

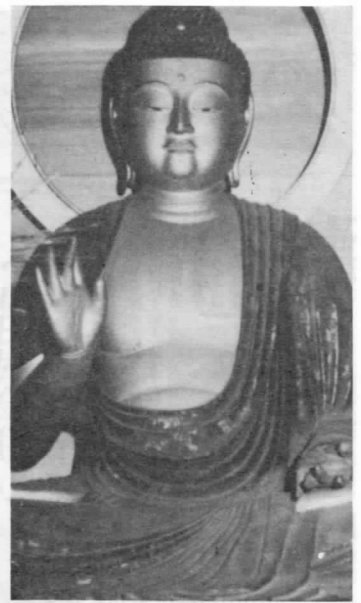
終戦後三十数年。年月の経つのは早いもの。あの時の混乱と、ひもじさを知る人々の数も減ってきました。「おしん」のドラマで大根めしの話が出て、美食に慣れきった人々には、美容食に良からうぐらいの感じしかないのではないのでしょうか。暖房のきいた部屋で、お菓子や果物を前に「おしん」の悲しさはドラマの出来事ぐらいの感覚でしょう。勿体ないことです。

現在、私達はあらゆる物に手することが出来るようになりまし。とりわけ、一番恐れていた死さえも豊かな生活環境と、進んだ医学、死を避ける技術や、死を延ばす技術が進み、また社会保障や福祉が進み、病院へ行くようになって死に接する機会が減ってきました。死は遠いところの出来事みたいな錯覚におちいっています。しかし、本当は死を少し先へ押しやり、それを見まいと

豊かな社会や、快適な権利はこれをつくった苦勞にかかわらず、何でも手に入るが如き錯覚にとられていきます。人生は楽しく便利なのが当然のような気になる反面、報恩感謝の気持ちはもとより、辛棒して苦しみに耐える気持ちも薄くなつてしまいました。消費追求の忙しさから、昔からの行事や、習慣も縮少されたり消えて行きます。

この間まで生産の場であり学習の場であった家庭は、食べて寝てテレビを見るだけの場所となりました。花が咲き、鳥が囀る春がやってきます。私たちは人として、この世に生まれたことの有難さに気づきたいものです。

地区広報「おやまだ」に寄せられた古くからある行事の中にも、私たちは豊かな社会をつくってくれた先祖の人々への感謝報恩の気持ちと共に一人ひとりが生きていることの不思議さ、有難さを考えてみたいものです。



釈迦如来座像

現在、四日市市六名町南命山光輪寺釈迦堂に奉安申し上げる秘佛「釈迦如来座像」は古来靈佛として尊崇されてきました。

毎年四月の第一日曜日に執行される涅槃法

会には、老若男女が大勢参詣します。なかでもいわゆる厄年

(男二十五才、四十二才、六十一才、女十九才、三十三才)の男女は欠かさず参詣します。

釈迦涅槃図とともに、ご開帳されるお釈迦さまの、まことに優美なだけかいお姿を拝して、過去一年間無事であったみ恵みに感謝をいたし、そうしてこれから先、一年間現世にて平和安穏な生活を営みうるべくご加護を念ずるのが町民一同の無上の生き甲斐です。

さて、当地大昔は六名の庄北和田の郷中村といいました。その中村に約千年の昔(平安

数多くの災厄に遭遇したにもかかわらず、今日まで極めて良好な保存状態のまま、そこそわが生命以上の手厚い奉祀を申し上げたのです。

やがて約五百五十年(室町末期)の昔、浄土真宗高田派中興の祖真慧上人当地にご巡錫に相成り、彌陀仏の本願力、他力念仏のみ教えと「南無阿弥陀仏」のお名号を賜わりました(現在寺宝になっております)

ここに釈迦如来の永遠仏であられる阿弥陀仏に、ご帰依申し上げることを決めて、現在

文化財に成るか? 「秘佛」 釈迦如来の由来記

六名町自治会長 田中弘治郎

像を制作して、数々の重要文化財を今日に残す名仏師集団「春日氏」の作といわれます。

円満寺は真言宗に属しており、釈迦霊仏のご功德と、弘法大師の即身成仏のみ教えとが相まって、当地住民の文字通り生活の精神的支柱でした。

また、中村の周辺に跳梁跋扈する豪族のご念持仏でもありました。さらに都落ちした尼僧さんの住持仏ともいい伝えられます。そのためか住民たちは、疫病の流行、旱天、水害、乱世、つけ加えての苛酷な上納金米の取り立て等々、

現在、秘仏、釈迦如

来のご開帳は、年に三度行います。

元日、四月の第一日曜日正十二時よりの涅槃会、八月十四日の盆法会です。

前記のような由緒ある「釈迦如来座像」を、今回四日市市有形文化財にと申請、去る二月十六日と二月二十八日の両日、文市化財調査会一行が光輪寺へ現地視察。これら調査結果を待つて近く市文化財に指定される予定。

この座像は、鎌倉時代初期のものと思われる、同像は高さ七五・二センチでヒノキの寄せ木づくり。温和な表情で、ゆったりした法衣をまとい、右手を折り曲げ、胸のあたりで手のヒラを外に向け、指を伸ばしている。

全体的に、藤原時代の作風だが、こじんまりしているところから鎌倉時代初期に作ったと見られている。

私が主人と結婚したのは、十二月も初めだというのに、牡丹雪の降る寒い日でした。暖かい静岡県で育った私には、珍しい雪景色と好きな人と一緒に暮せると云う二重の喜びでいっぱいでした。

主人はお茶を栽培する専業農家、私はサラリーマンの家庭に育ちました。この育った環境の違いに、双方の親は大変心配したようでした。

当初は慣れない暮らしに戸惑うことも数多くありましたが、主人の「同級生が夫婦づれで仕事をしてるのを見てうらやましかった」と云った一言で、私も畑へ出るようになりまし

た。モンペ姿に地下たびを履いて、外見は一人前に出来上ったのですが、鍬の使い方もおき方も知らず、主人に一つ一つ手を取って教えても



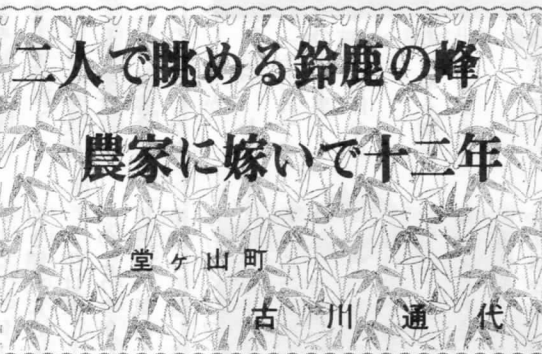
現地光輪寺での市文化財調査会一行

らいました。こんな私に、主人の両親は「百姓は畑に出さえずれば一人前だ」と励ましてくれたものでした。

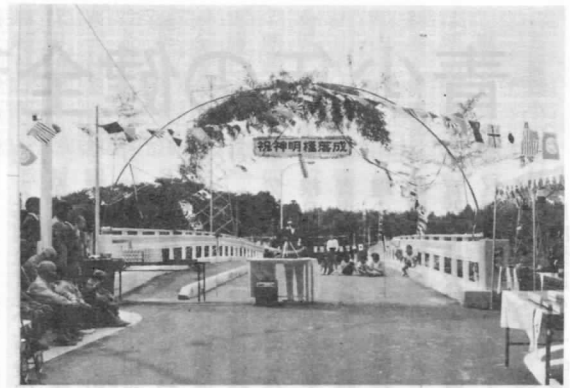
あれから十二年が過ぎ、三人の子供にも恵まれ、母の助けを借りながら、どうにか農家の主婦になれました。農業の主力も私達夫婦に移り、結婚当初はつらく感じた新茶の忙しい季節も、家族が協力し、助け合って生活して行く張り合いのある時期だと思えるようになりました。

家庭不和、家庭崩壊など暗いニュースの多い昨今、助け合いの気持ち、家庭団らんの時が持て、また汗を流して働く姿を子供達に見せられることを、とても幸せだと思えます。

これからの私の夢は、主人と二人でいつも眺めている美しい鈴鹿の峰を「百姓は嫌だ」と云う長男と、茶園で肩を並べて眺める日の来るのを楽しみに、安定した農業、明るい家庭にして行く事です。



二人で眺める鈴鹿の峰を「百姓は嫌だ」と云う長男と、茶園で肩を並べて眺める日の来るのを楽しみに、安定した農業、明るい家庭にして行く事です。



神明橋と晴れの橋渡式

念願かなった渡橋式 内部川と神明橋の今・昔

堂ヶ山町 奥村武雄

内部川は、西の鈴鹿連峰鎌ヶ岳を源として、東西約二十kmあり、小河川としては流れが荒く、鈴鹿市と四日市の境をなすが如くに流れている。
伊勢湾に入るまでには、西は水沢から東は塩浜に至る間に大、小十数橋を数える橋が架り、小河川としては橋の数が多く、これらは川の兩岸に多くの集落が接近していることを示している。

四日市市長、県議、市議など多数の来賓を得て盛大に挙行了した。
清めの雨か、前夜の雨も



また、この川原の砂利はコンクリートなど建築物に適し重要視されていたが、現在では河川の防災上護岸工事の充実と、河川を守るために、砂利採取は厳禁されている。
この内部川は、明治、大正の末までは、堤防の治水工事がとぼしく、昔から九月の厄日などにはたびたびの災害を受けていた。
堂ヶ山地内を流れるこの川に、戦後木橋として架っていた神明橋が老朽化し、最近の交通量に適合せず、このたび永久橋として去る五十八年十月に完成した。
町民誰もが、この橋の完成を願っていただけに、このようこびはひとしお大きく、渡り初め祝賀式典には、時の山本自治大臣、四日市市長、県議、市議など多数の来賓を得て盛大に挙行了した。

心のやすらぐ町 そんな小山田にしたい

山田東 伊藤友美

四日市といえば、ほとんどの人が四日市ゼンソクを思い出すでしょう。同じ市内で、公害問題に苦しむ人たちがいるというのとはとても残念なことです。
この公害問題を他人ごととは思ってはられません。なぜなら、将来小山田に公害が発生しないという保障は何もないのです。
春にはタンポポや、れんげがあげ道をうめつくし、夏にはうるさいほどのせみの声、秋空の下には稲穂が頭をさげ

今公害に悩んでいる四日市の中心部の人たちだって、だれも公害を予期していません。たまたまです。人々の生活のために良かれと思った開発や、工場誘致が人々の首をしめる結果になっているのです。と言っても今さら、公害のおこっていない頃のように環境を戻すことはできません。工場の設備を改善して、空気の汚れを少なくするなど公害

心のふれあう小山田に 良い環境を保ちます

堂ヶ山町 平山明美

すつかりあがり、好天に恵まれた中で、早朝より打ち上げる花火。神事による安全祈願、若山法瑞家による三代夫婦、地元関係者並びに地元民など多数が渡り初めを行った。
また同渡り初めには、岸田保育園の鼓笛隊も特別参加、園児の打ち鳴らす鼓笛が式典に一層の花を添えることとなった。
橋の完成により、産業道路としての果す役割も大いに期待されます。

私たちが住んでいる小山田は、四日市市の中でも極めて自然に囲まれた環境のよい町です。だから私たちはその良い環境を、いつまでも保っていきよう努力する必要があります。
周辺の町の近代化にとらわれてしまうと、せつかくの恵まれた環境も台なしになってしまいます。しかし「自然を守る」という強い意志さえ持っていれば、その心配もありません。

に苦しむ人々を救う、ただでは講じられているようですが、小山田のような空気は戻ってきません。
そこで、交通さえ不便な小山田ですが、開発が進んでいないからこそ、これからの開発について慎重であってほしいと思います。
子どもたちが伸びのびと遊べる野山があり、都会の生活に疲れた人が心のやすらぎを得られるような町として、小山田の自然を守っていきたいと思います。生活の表面だけの利便さなど、公害病をかかえこむことを思えばほしいとは思いません。

「町を美しく」という言葉をよく耳にしたりすると思いますが、その言葉にはいろんな意味が含まれていると思います。一般に言えば「見た目に美しく」ということですが私は、町の雰囲気や美しくという意味にもとれると思います。
例えば、朝、道で出会った人に「おはようございます」と言うだけで、言った人も、言われた人もとてもいい気持ちになると思います。
また、最近青少年の非行が問題になっていますが、私の町では大きな問題が起っていません。これは、地域社会の連帯が強いことが一つの理由だと思っています。
うちの子には注意をしてもよその子が何をしても知らん顔、という近頃の風潮が私の町にはありません。
うちの子も、よその子も大事な子なんだという考え方はずっと持っていてほしいと思います。
見た目に美しい町だけではなく、それに加えて心のふれあいのある小山田の町を守っていきたいものです。交通の便など、困る面もありますが環境のすばらしい小山田が、私は大好きです。
何年か後も、私はこの心暖まる緑の自然に心ごまされることを望みます。

青少年の健全育成は地域ぐるみで

市長を囲む 地区懇談会

昨年十月十三日、地区市民センターにおいて、地区の各種団体代表、関係機関等から三十七名、市側から市長、関係部課長以下九名が出席し、「青少年の健全育成について」をテーマとして懇談会が開催されました。

この席での主な内容は次のとおりでした。

地区市民センター館長の開会挨拶で始まり、館長が司会して、市長挨拶、市議員挨拶のあと、六名の方から基調発言があり、そのあと懇談が行われ、最後に前年の懇談会の道路問題についての取組みの経過報告があり、連合自治会長の開会挨拶で終了した。

基調発言は、西陵中学校長から「西陵中学の生徒の非行等の現状と対策」小山田小学校教頭から「小山田小学校の児童の生活指導」中学校PTA副会長並びに母親部長から「青少年非行防止について、

父親と母親の立場から」小学校PTA会長から「家庭教育」青少年相談員から「問題と処理の事例」など当面している問題の現状や対応と、家庭教育及び社会教育の必要性、地区の環境浄化についての意見発表がありました。

自由発言として中学校生活



地区懇談会

指導主任、市青少年対策室長、市老連会長、市長等から現代の教育の難しさ、教育制度の問題点、父親の権威の低下、子供との対話ふれあいの必要性、子供の躰など活発な意見がだされました。

青少年の健全育成につきましましては、学校と家庭だけでなく地域ぐるみで取り組むべき問題であるので、今後機会を捉えて話し合いを進めていくということで懇談会は終わりました。

枯草火災防止にご協力を!!

—— 南消防署からお願い ——



枯草火災の現場

昨年中本市で発生した火災は一二三件で、このうち枯草火災が四一件と、全体の三〇%にもなっております。最近では、宅地開発や道路整備が進み、道路や住宅に隣接する空地が多くなっており、通行車両のたばこの投げ捨てとか、子どもの火遊びから枯草火災になる例が増加しています。本市では、枯草火災を防止するため、

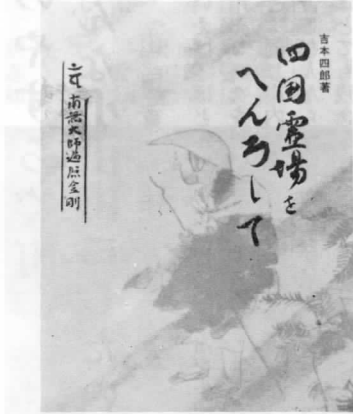


おい繁る枯草

「火災予防条例」で空地の所有者、占有者は空地の枯草等燃焼危険のある物件を除去しなければならないことになっております。みなさんの所有しておられる空地をいま一度みなおして、雑草が繁っているところは早急に刈取っていただき、枯草による火災の防止にご協力くださるようお願いいたします。

図書の寄贈

山田出身の吉本氏から
自著出版の図書



寄贈図書

小山田地区市民センターの図書室にこのほど、徳島県小松島市に住む吉本四郎（旧姓矢田四郎）氏より、自分の生れ故郷である小山田のみなさんと、自著出版の図書「四国霊場をへんちして」の図書の寄贈を受けました。

この図書は、氏が霊場として信仰と巡行の面だけでなく、文化財として残っている佛像、佛画、塔山門や、寺を開いた人、寺域の模様、附近の風景などを遍路してみたいと霊場めぐりを思いつき、五カ年余りの歳月をかけての遍路記録が細かく書か

れている。

「註」著者の吉本四郎氏

明治三十三年九月

小山田村大字山田二一五〇番地に生れる。

大正四年二月

小山田尋常高等小学校卒業。

大正九年三月

県立四日市商業学校卒業。

昭和三年一月

現在の徳島県小松島市に住む吉本家の養子となる。

昭和二十四年七月

味噌醬油製造株式会社、吉本商店の社長を継承、現在に至る。

親はしつけに自信を

親子のすきま風

小山田子育て連会長 水谷 和敬

現代の青少年は、自己中心主義で、人に迷惑をかける行動も平気でやるのです。

これは、幼児期に、ものの見方考え方に対する躰ができなかつたのではないのでしょうか。

三月四日小山田小学校体育館にて鼓笛隊十周年記念演奏会を行いました。沢山の地区の皆様の前で隊員五十六名が一生懸命に力いっぱい演奏を披露いたしました。十周年を迎える事が出来ましたのでも

要求をかなえる甘さ

最初の躰の場である家庭で放任し、最初の集団生活の場である学校で、努力が足りなかつたのでは済まされません。

指導の先生、OB、地区の皆様のお支援と御協力の賜ものです。この紙面をかりまして小山田保育園の皆様方本当にありがとうございます。

今後、地区の皆様方には一層の御理解と御協力を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

保護者会会長 川島幸包

小山田鼓笛隊 盛大に十周年演奏会



盛大に行われた記念演奏会

なんでも物をふんだんに買い与え、人に迷惑を掛けても平気でいたり、物を大切にしない、要求はなんでもかなえられる、と云った甘さが育てられ、今日にきているのではないだろうか。もう一度子供の問題について考えなおす必要があるように感じられます。

私たちも、親と子の関係を基本的に考え直す必要があるのではないのでしょうか。

荒廃した親子関係や、親の放任主義が事件の要因にもなっている場合が多く、同じ家に住みながら親と子のあいだに

チームワークと判断力を競う オリエンテーリング大会

子供会育成会

地区子供会では、本年度最後の行事である恒例の子供会オリエンテーリング大会を、去る二月十九日(日) 好天に恵まれた中で、地区市民センターを基点として行いました。

この行事は、自然の山野を相手に、地図とコンパスを頼りにかけ巡る競技で、各グループ毎に別れ、時間差で出発、幾つかの隠されたポストを求め、チームワークと判断力を競うだけに、汗を流しながら楽しく野山を駆けまわることができました。

入賞は次のみなさんです。

【小学生男子の部】

にすきま風が吹き込んで、人間のつながりが無い。親が子の躰や指導に自信を失ってはどうしようもありません。

親と子の心のつながり

教育の場は学校だけにあるのではありません。親と子の心のつながりこそ、人間形成にとつて必要なものではないのでしょうか。

小山田の青少年がよりたくましく、より明るく育つための一つの糧となり、明るく家庭をつくるために少しでも役に立てば幸いに思います。

一位 豊住清治 黒田雅啓
二位 椎名剛史 竹内直樹
石田照幸



あった！あった！
こんなところに

二位 中条茂美 平尾明信

森田高通

【小学生女子の部】

一位 伊藤いつい 伊藤良子
古市美樹 伊藤みさえ
二位 井上真弓 小住裕子
鈴木公恵 矢田陽子

【中学生男子の部】

一位 長田圭至 河村直也
矢田信洋 伊藤嘉博

俳句

小山田軽費老人ホーム
俳句同好会

昼下り老の張りある早春賦
か かつ

些事すべて捨てて見事や冬木立
は や か わ

鉄塔の鳥動せず吹雪中
蘆 生

ぼたん雪重たくゆれて手のひらに
まつだ

雪とけて猫のいとなみ声甘し
あ き

雪の道たすけ合いつつ笑いつつ
か とう

立春の寒さ胸打ち身をかがむ
い つ

立春とは名ばかり雪のふりつづく
千 代

ぼたん雪窓より眺め茶を淹れる
は る 子

友の愚痴聞きつつ窓は雪景色
万 代

初詣で伊勢の宮居に老いしつつ
み つ へ

雪を踏み佛果を得たる貌をし
麦 笑

二位 矢田一之

水谷 徹 平尾秋夫
酒井昭成

【中学生女子の部】

一位 矢田弥須子 森 博子
矢田律子 松田澄子
二位 矢田恵美子 山本 恵
小倉あさみ 中川 幸

詩

山田

山田町 矢田まさ子
(一)母のふるさと山田
昔昔の山田は
ガタガタ道でバスもなく
テクテク歩いて八王子
名古屋育ちの私は
母に連れられよく来た山田
子供の頃の思い出が
発展をした片隅に
小さく残っている山田です
(二)終戦後嫁いで来た山田
昔昔の山田は
三重県三重郡小山田村字山田
今はモダンな山田町
赤子背負って鉄持って
へっぴり腰で畑仕事
終戦当時の思い出が
発展をした片隅に
小さく残っている山田です

川柳

山田町 矢田まさ子
神様も踊りたくなる天王祭
小山田の粋な若衆の盆踊り
みこしの子祭りのはっぴよ
く似合い

風になびく地区旗のもとで
汗と笑いの地区大運動会

初秋の風になびく地区旗のもと、恒例の地区大運動会が五十八年十月十六日(日)小学校校庭で盛大に開催された。回を重ねるごとに盛りあがるこの運動会も、各種競技と

ともにアトラクションの仮装行列、三重県警音楽隊の特別参加など、楽しいなかに地域住民の親睦融和がはかられた。



上：かあちゃん頑張っ！(親子三代リレー)

右上：特別参加の県警音楽隊と
小山田鼓笛隊の合同演奏

右中：綱引き

右下：幼児の“はたとり競争”



息ためるために
各所で共催行事
好評を得た地区文化祭

昭和58年度

また会場の一部には、南消防署による「防災用品コーナー」も設けられ、防災意識の向上につとめた。このほか、小学校体育館では児童作品展とPTAバザー、運動場では体育振興会によるソフトボール試合、センター前広場ではゲートボール大会などがそれぞれ催され、文化の秋にふさわしい有意義な一日であった。

第二回地区文化祭が、十一月五、六の両日地区市民センターを中心にして開催された。本年度は、特に展示会場の一部にセンター事務所も開放され、各会場には生花、書道、写真、手芸品、工芸品、盆栽、菊、蘭など、日頃丹精こめて作りあげた力作、労作だけに会場を訪れた人たちも、ため息ばかり……。



盆栽会場



出品物に思わずため息(地区市民センター)

小山田地区の人口 5,554人

(59年1月現在)

町別	世帯数	人口		
		男	女	計
山田町	701(261)	884(87)	1,054(180)	1,938(267)
西山町	145	278	300	578
小山町	143	305	310	615
内山町	55	120	126	246
六名町	45	100	105	205
堂ヶ山町	103	238	237	475
美里町	37	84	75	159
鹿間町	226	445	460	905
和無田町	100	212	221	433
計	1,555	2,666	2,888	5,554

()は内数で小山田老人福祉施設

編集後記

◎長かった今年の冬、きびしかった今年の寒さ、例年にならぬ積雪、まさに記録的なこの冬も、弥生と共に一日も早く脱皮してほしいものだ。
◎旧小山田村が、四日市市に合併して今年でちょうど三十年、「温故知新」の気持でとりあげました。
◎地区のみなさんから、お忙しい中ご寄稿いただきありがとうございます。みなさんの声が、明日の「おやまだ」地区の活力になることを願って止みません。